



女性の書く行為の政治性 周縁化されてきた労働者階級女性作家の誕生の意義 文学と女性運動の共鳴の様相

人文科学系・言語文化学領域

市川 千恵子

教授

ICHIKAWA Chieko

博士(人文科学)(お茶の水女子大学)

■研究キーワード

近現代イギリス文学研究／女性作家研究／活字文化研究／ジェンダー研究

■主な所属学会

日本英文学会／日本ヴィクトリア朝文化研究学会／ディケンズ・フェロウシップ／NAVSA／RSVP

■研究者総覧

<https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.870d1c8aca3fe22d520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

19世紀中葉から20世紀初頭のイギリス女性作家を中心とする活字文化について研究しています。小説から政治的著述や雑誌論説などの幅広い文学的著作物を研究の対象としています。下記の3つのテーマを研究課題として、テクストの精読とアーカイブ調査を連動させて検証しています。同時に、文学作品の正典の概念を拡大しながら、女性著述を軸に時代と国境を越境する文学的・政治的ネットワーク形成についても考察しています。

1. 国性の書く行為の政治性

2. 周縁化されてきた労働者階級女性作家の誕生の意義

3. 文学と女性運動の共鳴の様相



労働階級運動の文献を専門とする
図書館 (Salford, UK)



女性工場労働者の組合組織を支援
する活動家と女性労働者 (1888)

アピールポイント

1. 近代のイギリスにおいて、書くことは女性の規範から逸脱した行為とみなされていましたが、結果として19世紀は女性作家の時代となりました。その背景には女性たちの様々な挑戦と葛藤が存在しました。書く女性と描き出される女性像の変遷を検証しながら、時代のジェンダーに基づく規範の書き換えを試みる女性作家の系譜のみならず、ジャンルと時代を超えた女性のネットワークの形成を見出しています。

2. 中流階級の作家が優位を占める文壇において、19世紀末から20世紀初頭にかけて労働者階級女性作家のエセル・カーニー・ホールズワース (1886-1962) は、論説、詩、小説、児童文学と多岐にわたる著作活動を開きました。この研究課題では、労働者階級女性作家としての声の獲得、労働者階級の抵抗の文化とアイデンティティ形成について考察しています。

3. 19世紀中葉に第一波フェミニズムと称される現象が生じましたが、活動家の多くが書くことを最も重要な戦略としていました。これまでにフレーレンス・ナイティンゲールのインド政治をめぐる著作や、ジョゼフィン・バトラーの性道徳規範改革のパンフレットなどを検証し、著作物が帝国主義や家父長制社会にインパクトを与えてきた様相を明らかにしました。社会の変革に寄与する書く行為の意義を再確認することが期待されます。